

3

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
17103001	<法のクレオール>と主体的法形成の研究	長谷川 晃 (北海道大学・大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、グローバル化の中で国境を越えて相互に浸透、変性、遭遇する法現象を動的にしかも多次元相互作用の側面に注目して、適切に把握するためのモデルの開発とそれを通じた新しい学問領域の開拓を目指すものである。すでに公表された論考では、「多元重層法の融合」などのモデルが提示されている。しかし、具体的なモデルとして提示されたものは限られており、これまでの検討の中では、さまざまなモデルの有効性を批判的に検討し、新しいモデルを提示しようとする共同作業は明確にはなっていない。このまま推移すると、「さまざまなモデルがありうる」という平凡な結論になる恐れもあるので、共同作業を重視したモデルのよりダイナミックな彫琢作業が必要であると思われる。これまで公表された研究成果は、個別적으로는質が高いものが多いが、個別研究の相互の関連付けに十分な配慮がなされているとはいえない。さらに、「主体的法形成」というコンセプトと新しいモデルとのつながりの明確化も今後の課題として残されている。本研究は、法の浸透、変性などを対象とするものであるため、理論的研究に加えて、歴史、社会、経済その他の文脈に即した多様な実態研究も必要であると思われる。海外の研究者や法を通じた社会改革の経験がある専門家や実務家からも学ぶことも多いと推測される。</p> <p>これまでの研究は、概ね計画通りに進んでいると思われるので、高い個別研究をモデル開発という面で統合し、当初の目的である、統合モデルの提示を通じた新しい学問領域の特徴づけや研究方法論の確立を期待したい。</p>			

4

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
17103002	グローバル公共財としての地球秩序に関するシミュレーション分析	吉田 和男 (京都大学・経営管理大学院・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>平成 17・18 年度で、国際的学術誌を含む、多くの学術誌や書籍で、最終的目標のシミュレーション構築のための基礎研究の成果が着実に挙げられていると判断する。ただし、非常に幅の広い対象を扱っているようなので、どのように「地球秩序」に関わるのか不明なものも見られる。今後は、個別の研究をどのように国際公共財概念のなかに取り込めるのかを精査する必要がある。シミュレーションの構築自体も進展していると評価する。シミュレーションによる分析自体はいまだ行なわれていないが、目的タイプの異なるモデルが用意されている。残りの研究期間で、特徴ある結果が提示されることが十分期待される。</p>			